

9月30日（金）

3日目からは晴天に恵まれ、歴史都市安東市での観光を楽しみました。

ハフエマウル 河回村（世界遺産）①

安東市で最初に訪れたのは世界遺産に指定されている河回村。この村には瓦葺きや藁葺きの韓屋が保存されているだけでなく、現在も両班（昔の貴族）の子孫が先祖から受け継いだ家屋を守り暮らしています。この時が止まったかのように美しい村です。



樹齢 600 年の御神木

- 近代化の進む中でタイムスリップしたような空間に入れたことは心震わすものがありました。韓国ドラマを見なくては、と思いました。
- これで三度目の訪問となった。同僚と訪れた後にはひとりでも行った。ただ村がもつ香気にひかれています。セミドライ地帯(少雨)である韓国で見渡すかぎりの稲穂の田、洛東江の水の恵み…。



ヤンジンダン
河回村で最も古い家屋「養真堂」



安東焼酎



世界遺産登録の記念碑



藁葺きの民家



韓流スター、リュ・ウチソの実家



土壁の路地が続く



村の境界の守り神「チャンスン」



村を囲みながら流れる洛東江と対岸の芙蓉臺

屏山書院

河回村出身の儒教者、柳成龍^{ユソリョン}が弟子たちに教を論じた場所。没後、教え子や近隣の儒者たちが彼の学徳を偲び、位牌を祭るために書院内に祠を建てました。正面には屏風のような優雅な稜線を湛える屏山が広がります。

ここでは偶然に日本語を話せるボランティア・ガイドの方にお会いし、丁寧に説明していただきました。

- ^{アンドン}安東では歴史を感じる一日でした。屏山書院では偶然ボランティアのガイドさんに日本語で説明してもらえてよかったです。感謝します。



正面に広がる屏山



日本語で説明を受ける



ガイドさんと一緒に

安東国際仮面劇フェスティバル

歴史文化の街・安東の代表的な祭り。韓国国内だけではなく海外からの団体も参加して民俗劇を披露しました。



Andong *mask dance* Festival 2011



ビョルシン 別神グッ仮面劇

国際仮面劇フェスティバルでは、韓国の重要歴史文化財に指定されている「別神グッ仮面劇」も鑑賞しました。「グッ」とは祭祀のことで、村の豊饒や厄払いを願い、また神を楽しませるために行われていた劇です。内容は両班（貴族）と庶民との関係をコミカルで風刺的に表現したものです。



- フェスティバルでは土産物を物色したり、仮面劇も言葉はわからなかったけどとても楽しかったです。
- 仮面舞フェスティバルも結構楽しいものでした。ハングルができればもっと楽しめたと思います。10 日間の開催中 2 回だけ見られるという韓国式伝統花火も観賞できました。なかなか豪快できれいでした。なお、お土産に買った仮面をどこに飾るか、今悩んでいます。



ミンバク 民泊に宿泊

安東での夜は韓国式の民宿「民泊」に宿泊しました。

河回村の中にある民泊に到着したときには外は真っ暗で、肌寒くなっていました。街灯もなく、舗装もされていない道をスーツケースを押しながら進み、着いたのは小さな民宿。トイレもシャワーも部屋の外で、みんな不安げな顔。どんな夜になるのでしょうか…？

10月1日(土)

訪韓4日目は釜山へ。世界遺産や賑やかな市場を見学し、現地の大学も訪問しました。

ハフエマウル 河回村②～民泊の朝

前夜は不便そうな民泊での宿泊に不安気だった皆さん。翌朝、朝日の中に現れた美しい風景に思わず感嘆の声があがりました。



のどかな田園風景



民泊のアジヨッシ（おじさん）と一緒に



美味しい朝食

「えっ！こんなところに泊まんの」というのが、到着時の正直な感想です。でも、翌朝、朝日の昇る中付近を散策すると、情緒あふれる古い山村の風景に感動。宿に戻ると、朝食の香り。とても癒されました。宿のご主人の人柄にも、好印象を覚え、前日の悪い感情も消えていました。

- 河回村では夜に着いて、様子がよくわからなかったけど、オンドルの部屋であたたかく寝られ、また朝あたりを散策すると、朝日ののぼる田園風景がのどかで、なにか心が安らぎました。



アンニョンハセヨ～



村の中の教会



ボ 梵 モ 魚 サ 寺

釜山観光のスタートは韓国 5 大寺院にも数えられる韓国禅宗の総本山「梵魚寺」から。

梵魚寺は約 1300 年前の新羅時代^{ウイサン}に高僧義湘によって建立されたと伝えられています。境内には 4 つの石を台座にした^{イルチュムン}一柱門や釈迦如来が奉安されている大雄殿など数多くの重要文化財があります。特に世俗と聖域の境界である一柱門は韓国の山地伽藍では必ず見られるものですが、土台が石でできているのは珍しいため重要文化財に指定されたそうです。

- 感動したのは梵魚寺から見る山の稜線だった。深い眠りから覚めた白雪姫のような稜線。こんな勝手な個人的な表現しか僕にはできない…。



梵魚寺の入り口「一柱門」



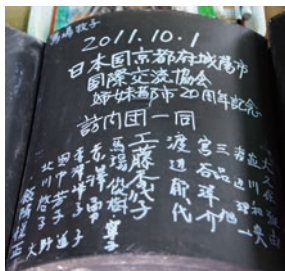
荘厳な「大雄殿」



一柱門の前で記念撮影



一柱門から大雄殿へ続く道



訪韓団全員で瓦を奉納



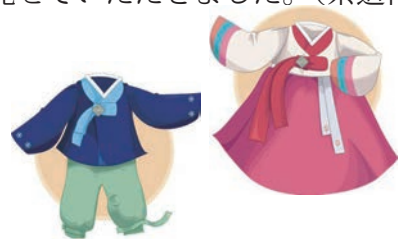
釜山女子大学

昼食後は釜山女子大学へ。ここでは、韓国茶道協会京都支部長で城陽市国際交流協会の韓国語講座の講師を務めたこともある尹道心さんの紹介で、裴末順教授^{ペマルスン}を訪ねました。釜山女子大学には韓国で唯一茶道の専攻学科があり、韓国茶道協会の副会長を務める裴教授の案内で、同大学内の韓国茶道博物館を見学しました。茶道にまつわる高麗時代からの宮廷衣装、青磁や白磁の茶碗、茶道具などを見せていただきました。（茶道博物館内は撮影禁止でした）



韓国茶道博物館前にて

- 釜山女子大の博物館では、今日本で見ている韓流ドラマ「イ・サン」に出てくるような衣装や持ち物などの本物が見られて感激でした。



チャガルチ市場

釜山の夜は韓国きっての有名な海鮮市場「チャガルチ市場」を見学。釜山を代表する観光地でもあり、釜山市民の海産物の台所でもある市場です。夕食には市場の近くのレストランで美味しい海鮮鍋をいただきました。

- チャガルチ市場では釜山の盛況ぶりが感じられました。夜景もきれいだったし、次回はぜひお魚を食べてみたいです。



美味しい海鮮鍋



賑やかな市場



働き者のアジュモニ（おばさん）たち



干物を売るお店も



チャガルチ市場から眺める夜景

そして日本へ

こうして4泊5日の韓国訪問を終え、たくさんの思い出とお土産を持って日本へ帰りました。

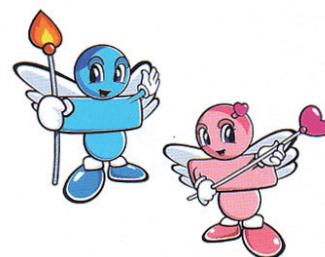
慶山市のマスコット『ベプリ』

～親切な友人となり、私たちを愛し育ててくれる「分かち合い」～

「一つ以上に分ける」という意味として、割り算の演算記号「÷」の形をしています。

『ベプリ』という名前は「分かち合う」という意味の韓国語「ベプルダ」と、「友達になる」という意味の英語「Be friend（ビー フレンド）」の意味を持っています。

隣人と分かち合い、助け合う情深い慶山市民、また教育と産業、文化の調和を表しています。



訪韓団に参加して

観光コースでない韓国を見た。慶山市役所に感激。それに工藤団長、大久保事務局長はじめスタッフの暑いハートとクールな頭脳に感謝です。



一般の旅行では訪問できないような施設見学や宿泊施設での初体験をいっぱいさせていただきました。また、皆さんと親しく交われたことも交流協会主催の旅なればこそと感謝しております。

まず、この旅行をお世話していただいた協会の皆様と慶山市の方々に心から感謝します。また、同行の方々とも仲良く過ごせたことを大変うれしく思います。

旅行中ずっとお食事がおいしく、体調もよく、韓国料理のすばらしさを実感しました。ありがとうございました。

耳が悪くなってきた私にとって何よりもありがたかったことは、同行者の方が気配りの利く人たちであったことです。本当に感謝します。



安東の国際仮面劇フェスティバル、^{ピョンスンソウォン}屏山書院見学、世界文化遺産の河回村、^{ボモサ}梵漁寺の見学、釜山女子大学の韓国茶道博物館の見学等、「文化旅」の印象を受けました。なつめ農家、すもも農家、サプサル犬研究所の見学や交流などは一般のツアーでは体験できないので、本当に今回参加できて良かったです。

宿泊は初日のモーテル、2日目のエレベーターのない^{サンデ}上大温泉ホテル、3日目の合宿気分の河回村の民宿、4日目のグレードの高い釜山のコモドホテルと、一度の旅でこれだけ変化の富んだ宿舎体験は初めてです。上大温泉ホテルでは、3階までスーツケースの上げ下げはさすがに大変だったが、温泉は広くて疲れも吹き飛ばす良い温泉でした。

食事は全ておいしくて朝からかき雑炊、昼はふぐ雑炊など韓国料理を堪能しました。

今回の市民訪問を計画していただいた国際交流協会、心よく訪問団を受け入れ対応していただいた慶山市の関係者のみなさんに感謝致します。カムサハムニダ

今回の訪韓では、様々な韓国料理に出会い「医食同源」の考えに基づく韓国の食文化に触れることができました。キムチに代表される伝統的食品は日本でも随分お馴染みになっています。韓国のテレビドラマ「チャングムの誓い」では、宮廷料理が紹介され、美容と健康に良い韓国の食文化に関心がありました。

慶山市の歓迎晩餐会では、伝統的な韓定食をいただき、色取りも美しい「五味五色」を楽しむことが

できました。中でも伝統食の一つ「^{サムゲタン}参鶏湯」ひな鳥のなかにもち米、高麗人参、栗、ナツメ、大蒜、生姜、甘草などをいれて長く煮込む料理は、一層おいしく感じられ、その日に登った^{バルゴンサン}八公山参りの疲れも回復するくらい「味力」のある食事でした。

.....

今回の旅行では、姉妹都市でもある地方都市の^{キョンサン}慶山市、古い村河回村、近代都市^{ハフエマウル}釜山市を廻ったことで、韓国の昔から現代までの人々の暮らしを垣間見ることができました。初めての韓国旅行でこんなに沢山の経験が出来たことはとても幸せだったと思います。

慶山市の市役所の方々を始め、見学した農家の方々、博物館や研究所の方々の暖かい気持ちが随所で感じられました。

タルチュム（仮面劇）は言葉がわからなくても、仕草で表現するその演技力に感心するばかりでした。

何よりも嬉しかったのは、毎日3回の食事がとても美味しいことです。野菜が多く、健康的な食事であることを実感しました。

草花に興味があるので始終きょろきょろしていましたが、ほとんどが見慣れた植物ばかりで、昔々日本が大陸から離れて形成されたというのは本当だったのだと思ったのです。

老化防止でハングルを少し勉強し始めて、韓国が少し近い国になりましたが、今回の旅行を通してまた少し近づけたことが私にとってはとても大きな収穫でした！

この旅行を計画して頂いた方々や、旅行中お世話になった皆様に感謝しております。ありがとうございました。



.....

まず最初に、この訪韓団に関連した皆様方にお礼を申し上げます。

企画～準備～実施にわたり大変お世話になりました JIEA の皆様、正に「おもてなし」の心の通った歓待をいただいた慶山市の皆様、統率のとれた市民訪問団の皆様、全ての方々に感謝したいです。後半の通訳&ガイドの^{イム}林さんも良くやっていただきました。

今まで、グループでの外国旅行の経験がなく、多少足腰の調子が良くないので、不安を抱えての参加でしたが、皆様のお陰で無事終わられて感謝しています。旅の内容は、一般的には体験できない見学や観光で、何時も期待と興味に溢れたものでした。アルバムを作りながら、それぞれにコメントを添えて、感動を再現したいと思っています。

全ての感動は伝えられませんが、一部の感想を下記致します。

慶山市の歓待には、正直なところ予想以上の「おもてなし」で驚いたくらいです。空港の出迎えに始まり、3日目朝の見送りまで、決まった2～3人の市役所の方から行き届いたフルアテンドをいただきました。市役所の玄関では20人程の人達に拍手で出迎えられ、立派な歓迎式で幕が開きました。^イ李副市長の歓迎挨拶、工藤団長の謝辞を聞きながら20年にわたる両市の友好関係蓄積の重みが伝わりました。

2日間にわたる見学は、博物館 / 体育公園 / 水道事業所 / と24万都市としての立派な施設と内容で、市の予算負担の大きさから経済的な豊かさを感じました。特に水道事業所では見学者向けの学習展示が完備されていて、非常に分かり易く理解できました。ナツメとスモモの農家では、それぞれご主人や農協の方々の解説で分かり易く、採りたての試食も美味しかったです。「サブサル犬育種研究所」では天然記

念物のかわいい大型犬に出会いましたが、全国に約 3000 頭しかいないとの事で、種の保存が必要だそうです。訪問者へのサービスと思いますが、2 頭の犬が、雲梯渡り / 綱渡り / 死んだふり / 等などの芸当で楽しませてくれました。最後に訪れた「八公山」^{バルゴンサン}観光では、生憎の濃霧で石仏のカップウイも霞んでいましたが、信者さん達は長いマットに座り、身を投げ出して何度も拝まれていて、厳粛な気持ちになりました。見晴らしの良くない濃霧の急登は約 45 分でしたが応えました。

歓迎晩餐会や沢山のいろいろなお土産もいただき、本当に至れり尽くせりの歓待でした。今後、末永い友好を続ける為にも、自分なりの努力をしたいと思います。

安東市^{アンドン}では、世界遺産「河回村」^{ハフエマウル}の観光は正に、韓流ドラマの時代劇そのものの中に入り込み、しかも民宿体験も出来、歴史と民俗の楽しい勉強でした。就寝前にオンドルの部屋で飲みながらの歓談ができたのも楽しい思い出になりました。

「仮面フェスティバル」観光も貴重な体験で、韓民俗のお祭り気分を味わえました。国宝レプリカのお面を被り、民衆の批判や心意気を語る民族劇を観賞しました。観客とのやりとりもあり、言葉は分かりませんでしたが十分楽しめました。

最後になりましたが、このような楽しい旅行を楽しめた事を重ねて感謝致します。



『姉妹都市提携 20 周年記念の市民訪韓団』について、工藤団長から訪韓団の一人になりませんかと親切な勧誘を受け、八十路前の健康なうちに夫婦で参加させて貰うことにしました。

慶山市については、今道元市長が城陽市の発展のため国際交流を進める必要ありとして、一番近い外国韓国で市制規模の類似している慶山市と盟約を締結されたと承知しておりました。^{いくたび}幾度かの相互訪問の情報は広報誌などで見ましたが、格別の関心もなく、慶山市の態様については全く知りませんでした。

韓国といえば首都ソウルということで、数年前、単なる観光旅行でソウルに行き、車窓から道路を走行する車両、林立する高層ビル群を傍観して、この国のダイナミックな発展ぶりに驚いたことがあります。

今回は首都ソウルの発展ぶりと比較して地方都市はどのようなものか、城陽市との違いは何か比較して見てやろうと興味が湧いてきました。

盟約締結 20 周年後の慶山市は周辺を合併し、今や面積 411 万 7 千 km²、人口 24 万 2 千人の中堅都市に発達していました。1 日半の視察では多くを知ることはできませんが、大学 12 校、高校 11 校、中学 15 校のほか 140 余りの研究施設を有する学術・研究都市に発展し、その力は工業団地 3 箇所 356 万 3 千 m²に 1,800 余りの企業が操業、25 千余名が従事する一大産業都市に変貌していました。主要産業はと聞くと、繊維産業と自動車部品とのことで、その輸出額は 893 百万ドルに達しているとのことです。

案内された視察地の中で最も強烈な印象を受けたものに慶山生活体育公園があります。高台 16 万 m²の敷地に 2006 年 3 月～9 年 5 月までの 3 カ年をかけて、①ドーム型室内体育館、②陸上競技場、③ラグビー場、④テニスコート 7 面のほかローラースケート場、フットサル場、バスケットボール競技場、バレーボールコート²を機能的に配置し、多くは国際競技が開催できる観覧席付きの施設であります。さらに、国際競技のできる水泳場の建設計画があるとのことで、これらの施設や計画から窺える慶山市の成長ぶりは

著しいものがあります。

一方、わが城陽市は『緑と太陽のやすらぎのまち』を呼称し、旧態依然な古跡の存在のみを宣伝しているが、人口減にみられるように市勢は衰退傾向にあります。

盟約後の姉妹都市の差がこのように大きく開いたのは何故だろうか？行政感覚の麻痺か議会会派の怠慢か市民の無関心か、われわれには図り知ることができませんが、衰退傾向にある城陽市の市勢を取り戻すためには、緑を切り崩してでも産業の育成や企業の誘致を図り、雇用の確保が必須で、関係者の発想の転換とともに、市民の奮起と協力が必要と思われます。



文集の発行にあたって

城陽市は1991年に大韓民国慶山市キョンサンと姉妹都市盟約を締結し、その20周年を記念する市民訪問団に参加いたしました。この20年間、我が国においては経済の停滞や高齢化社会と大きな課題を抱えてきましたが、日韓の交流、特に文化交流においては大きく飛躍してきました。この間慶山市は合併などもあり大きく発展し人口24万人、13大学校をもつ大都市になりました。韓国発展と並行しての成長もありますが、慶山市が様々な市の発展を進めていることを今回の訪問でも理解することができました。慶山市立博物館、スポーツ総合施設である生活体育公園、教育面も充実した水道事業所、特産のナツメやスモモの生産、天然記念物であるサプサル犬研究所、仏教史跡カップウィなど多くの分野にわたり特色を生かした充実した都市整備がなされています。こうしたダイナミックな慶山市を見ることができましたことも、姉妹都市・慶山市の温かい配慮をいただいたためであり、心より感謝する次第であります。また、韓国薬膳や市民で賑わうレストランでの昼食など様々な慶山市の素顔を体験させていただきました。

旅の後半は韓国文化の故郷とも称される安東市アンドンを訪問し、仮面劇の国際フェスティバルや世界遺産であります安東市河回村ハフエマウルに滞在し、釜山プサンでは韓国三大寺院のひとつ梵魚寺ボモサを訪ねることができました。

詳しくはこの冊子を見ていただき、このように素晴らしい慶山市および韓国文化を巡ることができた姉妹都市盟約20周年記念としての意義をご理解いただけましたら幸いに存じます。

今後も江戸時代あめのもりほうしゅうの外交官雨森芳州の言葉「誠心の交わり」を続け、多くの方に隣国との友情を深められることを祈念いたします。カムサハムニダ！！

2011年度市民訪韓団団長
城陽市国際交流協会顧問

工藤 香代子

城南新報 2011年10月5日(水)

市民訪韓団が帰国報告

ナツメ生産農家見学など

城陽市国際交流協会 慶山市で思い出

姉妹都市提携20周年を記念して城陽市国際交流協会(富田泰博会長)が先月28日から4泊5日の日程で派遣した市民訪韓団(工藤香代子団長、16人が帰国したことを受け、市役所内で4日、報告会が開かれた。

一行は初日に慶山市役所を表敬訪問し、李太慶(イ・テアム)副市長らの熱烈歓迎を受け、同協会親善大使であり、城陽市にも勤務経験がある徐漢植(ソ・ハンシク)さん、李相昊(イ・サンホ)さんらとも対面した。

2日目には慶山特産ナツメの生産農家を訪問し、市内の生産量は年2372トンで韓国全土の27%、苗木生産は全土の2分の1との説明を受け、近年は生産過剰により価格低迷に悩まされている現状も聞いた。

さらに、韓国国内に3000頭しかないといふ天然記念物「サプサル犬」を30頭飼育している大育種研究所「カッパウィ登山」も行い、3日目は安東(アンドン)市で開催中の「国際仮面舞フェスティバル2011」を観賞し、4日目は釜山へ移動して韓国5大寺院のひとつ梵魚寺(ボモサ)などを見学。今月2日朝の便で全員元気に城陽市へ帰ってきた。



市民訪韓団の報告会で挨拶に立つ富田会長

20年。今年は8月に慶山市の中学生を迎えて北城陽中で交流会を開いたほか、12月には韓国茶道を紹介するイベントを文井で開催する。この節目の年にさらなる日韓親善を進めることを強調。工藤団長が「姉妹都市盟約締結当時の面影もなく近代的に発展しているまちや温かい歓迎ぶりに感銘を受けた」と報告した。

スライドで訪韓の様子が見られ、姉妹都市提携20周年を記念して、橋本昭男市長は、私も来週12日から市民の来への招聘を受け、3年ぶりに慶山市におじゃまする予定。国際交流協会の果たす役割は今後ますます大きくなる、お力添えを」と挨拶した。

読売新聞 2011年10月5日(水)

「韓国・慶山へ理解深まる」

姉妹都市20年 城陽の訪問団報告



韓国の河回村を訪れた訪韓団のメンバー(城陽市国際交流協会提供)

城陽市と韓国・慶山市の姉妹都市提携20周年を記念し、城陽市国際交流協会が韓国に派遣した市民訪韓団が帰国し、4日市役所で報告会を開いた。

慶山市は韓国慶尚北道の南部にある都市。10を超える大学がある学術・研究都市で、隣接する大都市・大邱広域市のベッドタウンとしても発展しているという。慶山市と城陽市は、1991年に姉妹都市となり、提携20周年となる今年、城陽市民ら16人からなる訪韓団が9月28日から10月2日まで慶山市や安東市など

を訪問。スポーツ施設や農家の交流ができればよかった」と、感想を語った。

洛南タイムス 2011年10月5日(水)

慶山市の発展ぶりに驚愕

城陽市国際交流協会

「市民訪韓団」が報告会

◆：城陽市国際交流協会(富田泰博会長)が実施した、韓国慶山市との姉妹都市提携20周年記念「市民訪韓団」(工藤香代子団長・団員16人)派遣事業の報告会が4日、市役所4階第2会議室で行われ、参加者は慶山市の歓迎ぶり、発展ぶりに度肝を抜かれた様子を見学。

◆：訪韓団は9月28日から10月2日までの4泊5日の日程で、慶山市内では、「市立博物館」や名勝「八公山」(パルゴンサン)、さらに7千人収容のサッカー兼陸上競技場や5千席の室内体育館、ラグビー場、テニスコートなどを備えた「生活体育公園」などを見学。

◆：近隣にある安東(アンドン)市に足を伸ばし、世界文化遺産「河回村」(ハフェマウル)の見学や国際仮面舞フェスティバルにも参加。

◆：報告会では、姉妹都市盟約締結当時の交流の歴史を知る工藤団長が、「今回の訪問では20年の友情の深さを肌で感じた。当時、人口規模の近い慶山市が選ばれたが、この20年間の慶山市の発展は目を見張るばかり、今や当時の面影はなく近代都市そのもの。各施設は、城陽市を大きく上回っていた」と、当時6万人の慶山市が現在25万人、一方当時8万5千人だった城陽市はこの15年間で6千人も人口を減らした歴史の対比に思いを馳せた。

◆：参加者からは「5回目の訪韓で慶山市へ初めて。市を上げての歓迎にも、交流を促進させていかねば」と、文化と知性のまちだ」と実感した。などの声が出された。こうした報告内容に対し



【写真】慶山市の発展ぶりに驚きの声が出た報告会



河回村の朝霧



慶山博物韓 三聖賢



カッパウイとサブサル犬

JIEA 城陽市国際交流協会

〒610-0121

城陽市寺田西ノ口7-4 西邦ビル2階

TEL: 0774-57-0713

FAX: 0774-57-0714

Eメール: office@jjea.jp